

第14回SGRAチャイナフォーラム 「東西思想の接触圏としての 日本近代美術史再考」 報告

日 時： 2020年11月1日（日）午後3時～4時30分（北京時間）
午後4時～5時30分（東京時間）

方 法： Zoom Webinar による

主 催： 渥美国際交流財団関口グローバル研究会（SGRA）

協 力： 清華東亜文化講座、北京大学日本文化研究所

後 援： 国際交流基金北京日本文化センター



今回のチャイナフォーラムは、Zoom Webinarによる
完全オンラインで開催され、当日は常時300名ほどの参加者が視聴しました。



今西淳子常務理事より開会挨拶の後、
後援の国際交流基金北京日本文化センター高橋耕一郎所長からもご挨拶をいただきました。



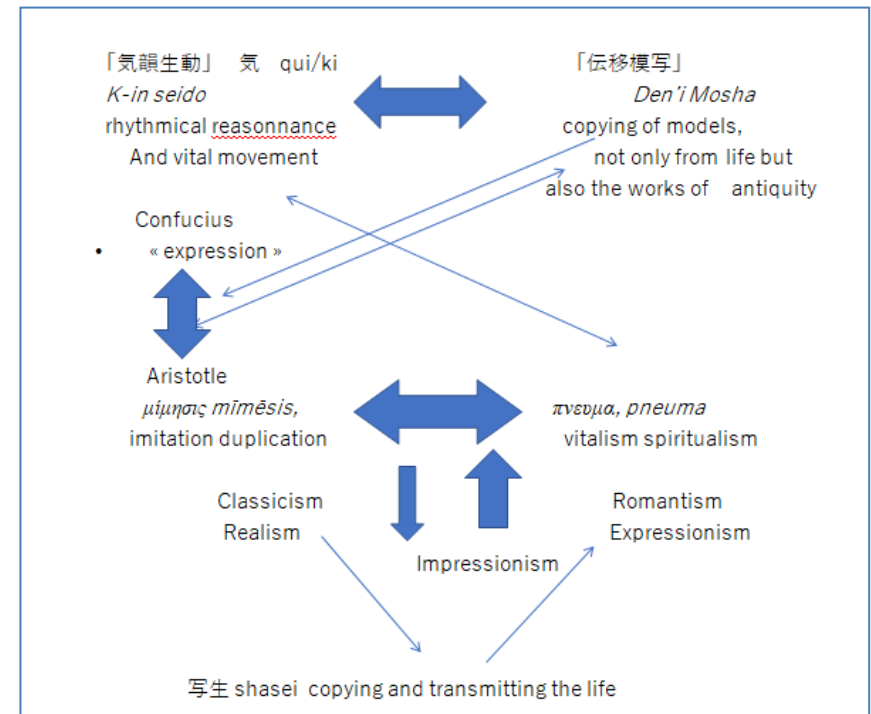
北京大学民主楼の講堂には、
司会の孫建軍先生をはじめ、
院生約30人が集まり、
Webinarでフォーラムを視聴しました。

今回も北京大学日本文化学部の
孫建軍先生が司会を
務めてくださいました。





国際日本文化研究センターの稲賀繁美先生より、
「中国古典と西欧絵画との理論的邂逅
—東西思想の接触圏としての日本近代美術史再考」
をテーマにご講演いただきました。



4-2 Einfühlung 感情移入と気韻生動

Qinyun Shengdong/Ki-in Seidô

- Theodor Lipps 1851-1914 Einfühlungstheorie,
- Ca.1910 “Lipps Association” at the University of Tokyo
 - Abe Jirô 阿部次郎 1885-1959
 - Tanaka Toyozô 田中豊蔵 1881-1948
 - Abe Yoshishige 安部能成 1883-1966 etc.
- By this sentiment called living movement (sei do), reality is imparted to the inanimate object. This is one of the marvelous secrets of Japanese painting. (...) –matter responsive to mind. (Ch. 9, « Esoragoto », p.149) 気韻生動への言及
- Arthur Jerome Eddy, *Cubists and Post-Impressionism*, 1914; 1919
- Henry Bowie (1848-1920) *On the Laws of Japanese Painting* (1909).
- Kubota Beisen 久保田米僊 (1852-1906)
- Shimada Sekko 島田雪湖 Shimada Bokusen 島田墨仙 (1867-1943))

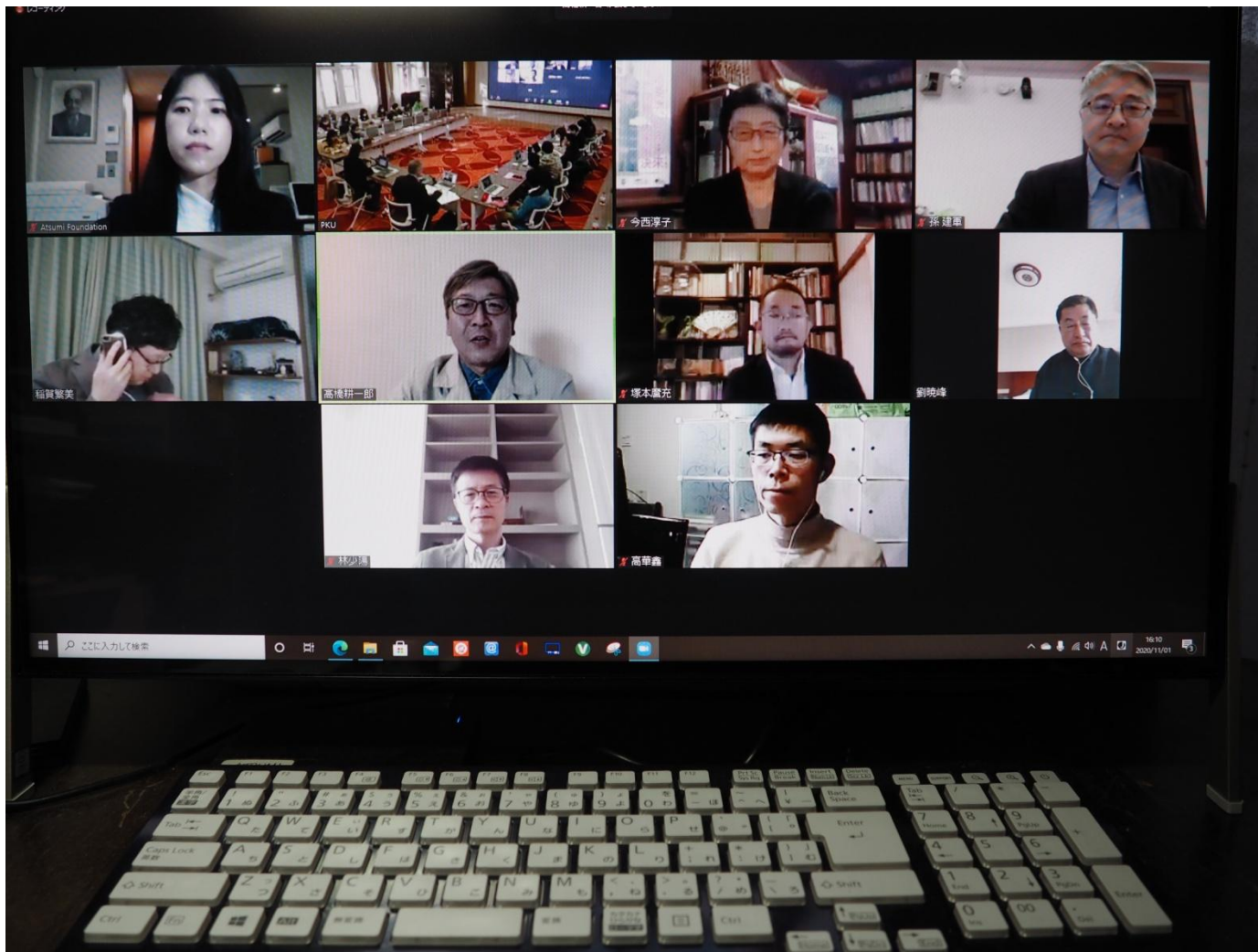


中國美術史：
院體畫vs文人畫

- 1) 形似；
- 2) 臨摹格法；
- 3) 工細；
- 4) 花鳥佔有一定的比例；
- 5) 部分作品有著強烈的裝飾效果；
- 6) 神韻仍是其追求；
- 7) 自文人畫起備受攻擊，遂成劣勢，直至清末。



劉 曉峰先生(清華大學歷史系)、塚本麿充先生(東京大學東洋文化研究所)、王 中忱先生(清華大學中文系)
(當日欠席のため、高華鑫先生(中国社会科学院文学研究所)代読)
林 少陽先生(香港城市大学中文及歴史学科)によりそれぞれの専門的知見に基づいたコメントが述べられました。



質疑応答では、コメンテーターの先生方からの質問の他に、
視聴者から寄せられた質問にも稲賀先生よりご回答いただきました。



劉 曉峰先生より閉会のご挨拶をいただいた後、
最後は機器トラブルによる音声の不具合にもかかわらず素晴らしい通訳をしてくださった
同時通訳の丁莉さん、宋剛さん(下段)もお顔を見せてくださり、
和やかな雰囲気の中、幕を閉じました。